

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	1276000138
法人名	有限会社 弥生・トータル・プランニング
事業所名	グループホーム もちの木
所在地	〒289 - 1313 千葉県山武市上横地70 - 2 (電 話) 0475 - 82 - 5780

評価機関名	特別非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4 - 4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成21年3月5日	評価確定日	5月12日

【情報提供票より】(21年2月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	15 人	常勤 3 人, 非常勤 12 人, 常勤換算	5 人

(2)建物概要

建物構造	木 造
	1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	水道光熱・管理費 15,000円+実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(居室の原状修繕費として 清算し残金を返却)
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	600 円	おやつ 150 円
	1カ月あたり 45000円 / 1日当たり 1500円		

(4)利用者の概要(2月20日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 84 歳	最低 79 歳	最高 91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 錦織メディカルクリニック 岩崎医院 北野歯科医院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

採光の良いリビングがある平屋の1ユニットのホームで、周りには畑や田んぼが広がり、敷地の東側には名前の由来でもある、大きなもちの木が3本植わっている。職員は入居者の尊厳を守り、寄り添うケアを心がけ、穏やかな暮らしを支えている。また、家族との信頼関係を深めるため、運営推進会議や面会時での話し合いを大切に、来られない家族には訪問を行っている。地域住民との交流も盛んで、野菜を差し入れてもらったり、散歩時に気軽に挨拶を交わすなど、地域に溶け込んだ自然な付き合いが見られ、入居者が笑顔で安心して暮らせるホームである。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の結果をケア会議で職員に報告し話し合った。同業者との交流を通じた向上は山武市グループホーム連絡会には現場職員も参加し、他のグループホームとの情報交換や勉強会を行っている。終末期の対応については指針の整備はできたが、医療との連携や家族と詰めた話し合いには至っていない。災害対策に関しても場面を想定した訓練は行われておらず、今後も継続した課題である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価は管理者の業務となっている。管理者が鉛筆で自己評価票に下書きし、ホーム長がパソコンで入力した。管理者は評価の意義や目的について現場従業員に伝えており、評価票も閲覧してもらっているが、職員一人ひとりの意見を反映した自己評価とは言い難い。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に一度開催し、入居者家族、市の職員、地域住民、職員の参加で行われている。議題はホームの現状や行事報告、外部評価の結果報告などで、参加者の意見交換もあり、充実した会議となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族からの意見・苦情は管理者が苦情相談窓口になって対応している。面会時には家族に必ず声かけをし、話を聞くようにしている。また、入居者の日常のようすを2ヶ月に一度居室担当者が手紙で報告している。ホームに面会に来られない家族には管理者が直接訪問し、口頭で伝えることもある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、祭りや老人会のイベントへにも参加している。また、課外授業の一環である高校生の福祉体験の受け入れや、地域ボランティアの協力で草草履や雑巾づくりをし、それを近くの障害者施設に届けている。ホーム隣の農家や入居者家族が収穫した野菜の差し入れもあり、地域住民との関係が良好なことが伺える。

2. 評価結果 (詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者の提案もあり全職員で話し合い、分かりやすく簡潔にした理念として「えがお」を作りあげた。それをリビングと事務室に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期的に行われるケア会議で理念について話し合うこともあり、全職員が入居者の「えがお」に繋がるようなケアに努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地域の祭りや老人会のイベントにも参加している。また、高校生の福祉体験を受け入れているほか、地域ボランティアの協力を得て布草履や雑巾を作り、それを近くの障害者施設に届けている。ホーム隣の農家の畑で収穫された野菜の差し入れや、米は近所の農家と契約するなど、地域住民との関係が良好なことが伺える。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義について、管理者は会議で職員に説明している。前回評価の結果も職員間で話し合った。しかし自己評価は管理者の業務となっており、職員一人ひとりの意見は反映されていない。	○	自己評価や外部評価は自らのケアサービスの振り返りにも繋がるので、そのためにも全職員で取り組むことに意義があると思われる。職員の意見も反映した自己評価の作成が望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催している。参加者は家族、市の職員、近隣住民、職員などで、ホームの現状報告、行事予定、外部評価報告などに対し意見交換を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が認知症の人やその家族を支えるボランティアの「キャラバンメイト」の隊員になっていることから、山武市からの要請で認知症に関する講座の講師役を務めている。また、市の職員から認知症に関することで相談を受けることもある。		
さばーと					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には2ヶ月に一度、居室担当者が日常の様子などを手紙で報告している。金銭出納帳は面会時に提示し承諾のサインをもらっている。また、面会に来られない家族には、管理者が直接出向き、口頭で入居者の暮らしぶりを伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見・苦情は管理者が窓口になって対応している。また、面会時には必ず声をかけをし、話を聞くようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	非常勤職員が多くパート職員の離職も見られるが、入居者へのダメージを防ぐ配慮を職員全体で行い、影響はほとんど見られない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修はその都度、対象になる職員に声かけを行っている。また、研修費はホームでバックアップしてくれる体制がある。内部研修は大まかな年間計画に沿って、事例検討や入居者一人一人のカンファレンス、外部研修参加者による研修報告などを実施し、サービスの質の向上に繋げている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山武市グループホーム連絡会に加入しており、2ヶ月に一度開催される会議に3名の職員が交代で出席している。また、他のグループホームとの情報交換や勉強会などを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前には必ずホームを見学してもらい、空き室がある場合は体験入所もできる体制がある。急な入所の場合は家族と協力して本人本位の対応を心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者とのコミュニケーションを大切に、気持ちに寄り添うケアに努めている。入居者からは教わることも、励まされることも多い。		
3. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いを直接尋ねることを心がけている。入居者がうまく表現できない場合でも、表情や日常の様子をよく観察し、家族などからの情報もふまえて意向をくみとることに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員はケア会議などで、入居者それぞれのいろいろな場面、さまざまな顔について情報交換し、介護計画に活かしている。面会の折々の家族との話や主治医の意見なども参考にしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者それぞれの状態に応じて、定期的に6か月から1年に一度見直しを行っている。何か状態に変化があったときは家族の要望や主治医の意見もふまえ、そのつど見直しをしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師である管理者と協力病院の医師により24時間健康管理の体制でのぞんでいる。また希望により専門病院への通院の送迎や付き添いの支援している。入居者が家族と外食する際、付添うこともある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の医師が主治医となり、月に2回往診している。また1年に一度は入居者全員が協力病院で健診を受ける体制がとられている。入居者が専門医にかかっている場合はそれを尊重し、送迎や付添の支援も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応や看取りについては、職員間で話し合いを重ねている。指針づくりも始められているが、医療との連携や職員態勢等、課題がある。	○	入居者の状態が重度化していくのは避けられない事実である。しっかりした指針と体制づくりのために、本人、家族、協力病院の主治医と話し合いを重ねることも急がれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	退職した職員やボランティアにも個人情報の取り扱いの注意を徹底している。不適切な言葉づかいなどは具体的な例を目につく場所に掲げ、職員は日々それを見て自分を省みることに努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝ゆっくり起きる入居者には朝食の時間を遅らせるなど本人のペースを尊重している。入居者が希望によりお酒をたしなむこともある。本人のペースやそのときどきの気持ちに添う支援を心がけている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は専門の業者に食材の配達とともに依頼しているが、それをアレンジして入居者と職員で相談してそのとき食べたいものを作ることもある。食事作りやあとかたづけには希望する入居者ができる範囲で参加している。ケーキと一緒に作ることもある。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週4回の入浴であるが、希望や必要があるときにはいつでも、何度でも入浴できる。入浴時間も特に決められていない。入浴日以外の日も足浴や清拭を行っている。ゆず湯などを楽しむことも多い。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洋裁の得意な入居者は手芸などをするとときに活躍している。居室の掃除は基本的に入居者本人がしているが、進んで共有スペースまでしてくれる人もいる。新聞を個人でとっている人、民謡の好きな人など、それぞれの生活歴や好みに添った気晴らしの支援をしている。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩にはほとんど毎日出かけている。散歩の際は1人の職員と入居者1人か2人で個別に出かけている。近所の商店に買い物に行ったりファミリーレストランで外食を楽しむこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを実施している。のどかな環境と平屋建てという環境にも恵まれ、徘徊に対しても鍵をかけるのではなく、介護の工夫で対応しようと努めている。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	家族やボランティアの参加による継続した救命救急講習を実施している。また、地域との協力関係も深めたいと考えている。防災訓練は、1年に1回消防署の協力を得ながら行っているが、場面を想定した避難訓練などが不十分と思われる。	○	年1回の訓練は行われているが、夜間を想定した防災訓練なども年間計画のなかにきちんと組み入れることが望まれる。命を預かる危機意識を常に持ち、災害対策について繰り返し訓練することも必要と思われる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護日誌や申し送りノートを通じ、職員は一人ひとりの食事量や水分摂取量の把握をしている。必要があればきざみ、流動食など献立の形態を変えたり、昼食を2回に分食するなど一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	梁がアクセントになっている高い天井の下、長く大きなテーブルがリビングの中心に置かれている。リビングや玄関、廊下には入居者がつくった手芸品や季節感のあるはり絵が飾られてあたたかい雰囲気をつくっている。玄関前の廊下に置かれた椅子が共用空間の中の一人になれるスペースとして役立っている。サンデッキで日光浴することもある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	戸口に本人の写真が飾られた居室は、それぞれ持ち込んだ馴染みの家具、好みの小物で居心地よく部屋づくりされている。エアコンの温度は職員が適温になるよう管理している。		